



広報

2007
平成19年
2月号

まよつたんと

vol.35



市の産業振興に大きな弾み

六町商工会が合併契約調印

12月8日の「合併契約調印式」で
固い握手を交わす6商工会長

主な内容

- ◆ますます市民のみなさんの利用しやすい公共交通をめざし
上限200円バス 上々のスタート
- ◆京都府内で初 「循環・共生・参加まちづくり表彰」
京丹後市が環境大臣賞を受賞
- ◆健康・長寿 蓬菜（ほうらい）の郷をめざし
蓬菜の郷づくり推進懇談会を開催

ますます市民のみなさんの利用しやすい公共交通をめぐって

上限200円バス 上々のスタート

市では、「わかりやすく使いやすい公共交通の実現」をめざして、昨年十月一日から一年間を期限として、丹後海陸交通株式会社バス路線の間人循環線工リア内（峰山く間人く網野く峰山）において、公共交通の利便性向上と市の活性化および観光振興をねらいとした上限200円バスの実証運行を開始しました。

運賃は、大人一回乗車では従来の間人く峰山七百円、間人く網野高等学校四百八十円が上限二百円までの設定と大幅に安く、さらには便数の増加、ラッピングバスの導入、接続の強化など利便性を向上させるとともに、あわせて時刻表の全戸配布、市職員の率先利用などを実施しました。

結果、試験運行開始から人員ベースでの利用状況は前年対比十月約一四〇%、また十一月では約一五〇%となりました。開始から二か月が経過した上限二百円バスの利用者数は、前年対比で大幅に増加したことになり、上々のスタートが切れました。さらに、運賃収入も定期券の購入などから前年の約八五%を確保でき、大幅な利用者増が財政面においても功を奏した結果となつていきます。近畿運輸局からも「全国的にバス路線の廃止・縮小が進んでいる中で、市民の立場でバス路線のあり方を検討しており、さらに努力してほしい」とエールをいただいています。

また、株式会社日進製作所、京都府丹後広域振興局にも市の施策に賛同いただき、独自にノーマイカーデーを設け、公共交通利用の取り組みを始めていただいています。

こうした波及効果が全市へ広がっていくよう、今後も本市の公共交通が、ますます多くの市民のみなさんにご利用いただけるように関係機関と一丸となつて取り組んでいきますので、ご理解とご協力をお願いします。

比で大幅に増加したことになり、上々のスタートが切れました。さらに、運賃収入も定期券の購入などから前年の約八五%を確保でき、大幅な利用者増が財政面においても功を奏した結果となつていきます。近畿運輸局からも「全国的にバス路線の廃止・縮小が進んでいる中で、市民の立場でバス路線のあり方を検討しており、さらに努力してほしい」とエールをいただいています。

また、株式会社日進製作所、京都府丹後広域振興局にも市の施策に賛同いただき、独自にノーマイカーデーを設け、公共交通利用の取り組みを始めていただいています。

こうした波及効果が全市へ広がっていくよう、今後も本市の公共交通が、ますます多くの市民のみなさんにご利用いただけるように関係機関と一丸となつて取り組んでいきますので、ご理解とご協力をお願いします。



昨年12月の峰山停留所での乗車状況（海岸線下り）

対前年比
10月 約140%

利用者
平成18年10月 10,079人
(平成17年10月 7,236人)

増加の主な理由
★運賃の大幅な値下げ。
★高齢者・高校生のみなさんへのアンケート調査の意向を運行ダイヤに反映させ、利便性を向上。

11月 約150%

利用者
平成18年11月 10,017人
(平成17年11月 6,731人)

増加の主な理由
★利用者の口コミによる宣伝効果。
★市職員による毎月1回以上の公共交通率先利用を11月1日から開始。



昨年12月の峰山停留所での乗車状況（間人線下り）

みんなの声が届いています

- ◇弥栄病院前に着くので、歩く負担がなくなり、とてもありがたい
- ◇車で行くのもお金がかかるし、バスは安全で事故の心配がない。車よりも経済的になった
- ◇京都市の市バスよりも運賃が安くなったのでうれしい
- ◇車を運転できなくなっていたので、バスが利用しやすくなり安心して利用している
- ◇運賃が安くなったので、こんなにうれしいことはない
- ◇バスの車内でも回数券が購入できるようにしてほしい
- ◇丹後庁舎く経ヶ岬間、峰山く大宮間、峰山く久美浜間も運賃を安くしてほしい
- ◇通学・通勤時間帯は、満員で乗れないので大型バスの運行にしてほしい
- ◇夕方から夜の便が少ないので、帰宅時間帯に増便してほしい
- ◇北近畿タンゴ鉄道の運賃を安くしてほしい
- ◇北近畿タンゴ鉄道の列車本数を増やしてほしい
- ◇など、さまざまなご意見をいただいています。今後の見直しでこのようなご意見を参考にして、改善を図っていきたく考えています。

上限200円バス 実証運行

◆実証期間 平成18年10月1日～平成19年9月30日の1年間

◆料金 1回乗車運賃上限200円 (お子さんは半額)

◆上限運賃200円バスルートと路線名

- ◇峰山駅～峰山～網野駅～網野高等学校～間人～丹後庁舎～弥栄病院～峰山駅
- ◇網野駅～丹後あじわいの郷～弥栄病院 (間人線・間人循環線・海岸線・弥栄病院線)

200円区間は回数券でさらにお得

得

区間運賃200円回数券は、丹海バスの営業所・案内所をはじめ、峰山・網野・丹後・弥栄の市民局と網野駅でもお買い求めいただけます。

回数券種別	枚数	運賃額	実質1回乗車運賃
普通回数券	11枚綴り	10回分の運賃2,000円	実質182円
通学回数券	13枚綴り	10回分の運賃2,000円	実質154円
昼間回数券	13枚綴り	10回分の運賃2,000円	実質154円

※通学回数券は、学生証・通学証明などの提示が必要です。
※昼間回数券は、10:00～16:00の降車にご利用いただけます。
※市民局では、領収書は発行できません。

北近畿タンゴ鉄道 お得な「京都ビジネス自由席特急回数乗車券」を販売

市では、北近畿タンゴ鉄道の利用促進を図るため、1月から市民局窓口などで北近畿タンゴ鉄道の「京都ビジネス自由席特急回数乗車券」を販売しています。

京都往復の特急列車自由席に乗車できる、たいへんお得な切符で、1冊（6回分）また1枚（1回分）ずつのバラ売りも行います。

京都市へ、旅行や出張などで行かれる際には、ぜひ「京都ビジネス自由席特急回数乗車券」をご利用ください。なお、北近畿タンゴ鉄道の各駅では1冊（6回分）単位で販売しています。（バラ売りはしていません）

◎販売価格

乗車駅名	1冊6枚の金額	バラ売り1枚の金額	バラ売り1枚当たりのお得額	販売窓口
丹後大宮駅	22,500円	3,750円	290円	大宮市民局 市民福祉課
峰山駅	24,060円	4,010円	420円	峰山庁舎 会計課 弥栄市民局 市民福祉課 丹後市民局 市民福祉課
網野駅	25,260円	4,210円	370円	網野市民局 市民福祉課 (ら・ぼーと内)

※詳しくは、市民課 (☎69-0210) へお問い合わせください。

※注意事項

- 途中下車はできません。
- 有効期限は、発効日から3か月です。(有効期限内にお使いください)
- 峰山庁舎会計課および市民局では、領収書の発行・払い戻しはできません。
- 土・日・祝日などの閉庁日以外の9:00～17:00に販売します。

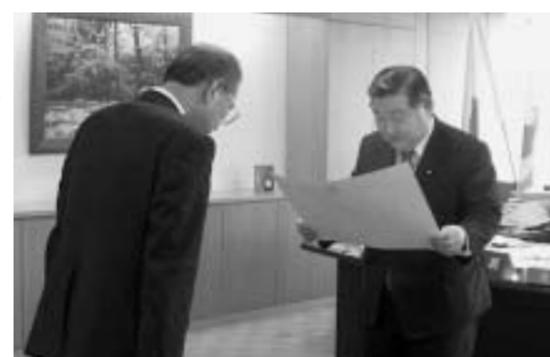
環境大臣賞

京都府内で初 平成18年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」 京丹後市が環境大臣賞を受賞

持続可能な社会の構築に向け、先駆的な実績がある自治体として、京丹後市が環境省の「循環・共生・参加まちづくり表彰」【環境大臣表彰】を二月二十二日に受賞しました。

同表彰は、平成二年度から毎年実施されているもので、京都府内の自治体では初めての受賞。

市では、▽自然環境の保全、▽循環型社会の構築、▽循環型産業の育成、▽新エネルギー推進プロジェクトの四つのテーマに基づき、「いのち」が



若林環境大臣(右)から表彰状を授与される荒田助役

輝き資源が循環する、自然と共生した「環境循環都市」をめざし、さまざまな取り組みを行っています。

そのひとつは、環境先進国デンマークにある環境研修センターの日本版として設立された「風のがっこう京都」の運営。風車と自然資源に囲まれて「環境教育」、「自然体験」、「産業創出」を学び、体験し、考えるプログラムを実施しています。

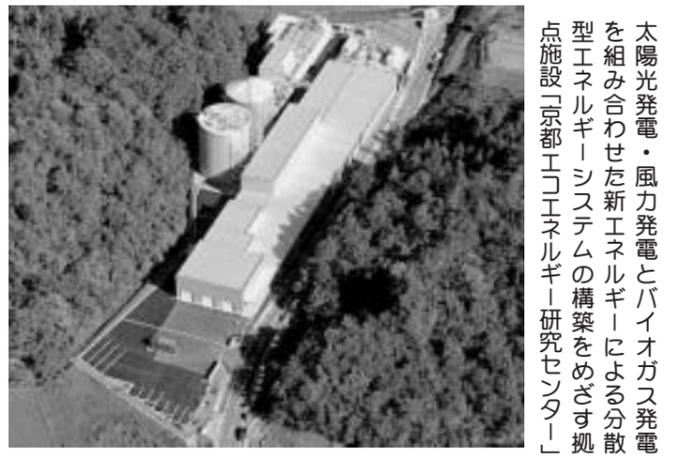
また、発電量の変動する太陽光発電・風力発電とバイオガス発電を組み合わせた新工



若林環境大臣(前列左から三人目)と荒田助役(後列中央)

ネルギーによる分散型エネルギーシステムの構築を目的とした地域実証研究を推進しています。

加えて、鳴き砂で有名な琴引浜や、北近畿最大級の規模を誇るブナ林など地域の豊かな自然環境の保全・美化活動、エコドライブの推進、小型風力発電システムの普及、資源循環型社会をめざした使用済みてんぷら油回収・ごみの分別処理



など、NPO法人や市民のみなさんの協働により、「環境循環都市」の創造へ大きな力を発揮していただき、その数々の取り組みが、今回、高く評価され受賞したものです。

環境問題は、人類すべてが地球規模で考え、環境に配慮した生活や経済活動を継続しなければ解決できません。

市としても、今回の受賞を励みに、環境大臣賞を受賞した自治体として、ほかの自治

体の模範となるような新時代の「環境循環都市」の創造に向けた施策を展開していくこととしています。

「環境循環都市」の実現には、家庭や地域の地道な取り組みが不可欠です。

現在、市内で動き出した環境問題への取り組みを市民のみなさんが理解していただき、自分たちでできることから実践していくことで、未来の子どもたちへ誇れる地域づくりを進めていくことができます。

健康・長寿 蓬莱(ほうらい)の郷をめざし

「京丹後市の総合的な高齢社会対策の推進に関する懇談会」(蓬莱の郷づくり推進懇談会)を開催

市では、健康長寿のまちづくりをさらに推進していくため、その方策や課題などについてさまざまななかからご意見を聞かせていただく「京丹後市の総合的な高齢社会対策の推進に関する懇談会」(別称・蓬莱(ほうらい)の郷(※)づくり推進懇談会)を、このた

び初めて開催しました。

高齢社会が進む中、すべての市民のみなさんが、「長寿」を喜びの中で迎える、高齢となっても安心して暮らすことのできる社会の形成が強く望まれています。

京丹後市においても、高齢化が急速に進展し、平成十八年四月一日現在の高齢化率は二七・四%と、四人に一人以上が六十五歳以上ということになり、特に団塊の世代と言われるかたが六十五歳を迎える二〇一五年、また七十五歳を迎える二〇二五年が高齢化のピークになると予想されています。

市では、この健康長寿の特徴をさらに発展させ、生涯にわたって、安心して、生きがいを持って暮らすことができる地域づくりをめざし、将来像を「蓬莱の郷」と掲げ、地域の各種団体が相互に協力し総合的に高齢社会対策を推進していくため同懇談会を開催しました。



初回から活発な意見交換が行われた「蓬莱の郷づくり推進懇談会」

しかし、同時に市内には、百歳以上のかたが四十七人(平成十八年九月一日現在)も元気に暮らされ、これは京都府内二十八市町村の中で一番多いとともに、人口比率では全国平均の四倍近くもあり、単に高齢化率が高いという訳ではなく、「健康長寿のまち・京丹後」であり、「蓬莱(ほうらい)の郷」とも言える誇り高いことです。

十二月十八日に開いた「第一回懇談会」には、市老人クラブ連合会、市シルバー人材センター、市民生児童委員協議会、市福祉サービス事業者協議会、市連合婦人会、市食生活改善推進員協議会、市ボランティア連絡会、市社会福祉協議会から代表者のかたなどが参加。

行っているが、具体的内容がわからないので、同じ目的で活動しているもの同士、まずはお互いを知ることが必要、「重なり合う事業は連携して実施することで、さらなる活性化につながるのではないか」、「活動の報告会や発表の機会があれば、目標を持って取り組めるようになるのではないか」など、初回から活発な意見が交わされました。



市民のみなさん一人ひとりが
生涯にわたって、安心して、生きがいを持って
暮らすことができる社会をめざす

会議では、高齢者のかたの低栄養解消のための料理教室の開催や、一人暮らしの高齢者のかたの安否確認のための友愛訪問、生き生きとした生活を送っていたことを目的とした交流会の開催など、それぞれの団体が行っている事業概要が報告されました。

また、その後の意見交換では、「同じような事業・取り組みを各種団体が

市では、今後、内容(テーマ)ごとに各種団体や関係者のかたからご意見や課題などを聞かせていただく中、有機的な連携を図りつつ、健康長寿のまちづくり実現のための総合的な施策を推進していくこととしています。

※蓬莱の郷
蓬莱とは蓬莱山の略で、中国で仙人が住み、不老不死の霊山として信じられた想像上の仙境。

産業振興に大きな弾み

六町商工会が合併契約調印

(峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町)



六町商工会長が「合併契約書」に署名・押印を行いました

京都府内で初めてとなる広域合併をめざす、京丹後市内の六町商工会（峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町）の「合併契約調印式」が、十二月八日にプラザホテル吉翠苑（峰山町杉谷）で開催され、約七十人が出席して開かれ、平成十九年四月一日には会員数三千人を超す府下随一の商工会として誕生することになりました。

市内の六町商工会は、平成十八年六月に「京丹後市内六町商工会合併協議

会」（協議会長・田中治大宮町商工会長）を発足。これまで六回の協議会をはじめ、正副会長会議、また協議会における組織・財政・事業の各検討小委員会、情報化対策専門部会、労働保険事務専門部会などで慎重に協議を重ね、▽合併の方式：新設合併、▽合併の期日：平成十九年四月一日、▽新商工会の名称：京丹後市商工会、▽事務所の設置場所：峰山町内（大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町に支所を置く）など二十七項目におよぶ協議事項を確認してきました。

「調印式」では、六町の商工会長が「商工会合併契約書」に署名・押印。また、国府京都市商工会連合会長と中山京丹後市長が立会人として署名を行いました。

田中会長は「新たな船出に向け、今後万全の準備を進めていきます。六町商工会の特色を活かしつつ、協働共感で響き合い、まちづくりをリードする『京丹後市商工会』の発足にご協力をお願いします」とあいさつ。

また、中山市長は「産業・商工業の振興は、本市の大きな柱です。商工会の合併は、産業振興の大きな弾みとなり、地域の一体化を促すものと期待しています。市の発展の中心としてご貢献いただきたい」と、お祝いと期待の言葉を述べました。

民間活力と経営ノウハウを取り込み経営改善

株式会社くみはま県 経営を大きく改善

株式会社くみはま県は、十一月二十八日に取締役会を、また十二月七日に臨時株主総会を開催し、株主の変更に伴う定款の一部改正などを行いました。

これにより、市が保有する株式のうち七〇株を株式会社ポラリス（沖田康彦代表取締役社長・網野町木津）に譲渡することを承認しました。

譲渡先の選定に当たっては、透明性を高め、公平・公正を期するために、昨年五月に行った

株式会社くみはま県 経営を大きく改善

（株）くみはま県は、平成十一年十月に地場産の農林水産物およびそれらの加工品、観光資源を活用した地域振興を目的に旧久美浜町、農協、商工会、漁協、森林組合、観光振興会など六団体が第三セクターを設立し、久美浜総合交流販売施設（SANKAIKAN）を運営してきました。

しかし、事業開始以来毎年一千万円を超過する赤字が発生し、平成十五年度の末時点では約四千九百万円の累積損失を抱え、経営が行き詰っていました。こうした中で、（株）くみはま

新鮮な農林産物などを直売し、好評の「菜〇野果市」（さわやかいち）



県の出資団体は、民間の活力と経営ノウハウを注入し、赤字体質からの脱却を図るため、一定の負債を整理し、平成十六年度から（株）ポラリスに株式の

一部を譲渡（七五株）し、同時に経営参加を求めました。（株）ポラリスの参画により、民間の活力と経営ノウハウを積極的に注入した結果、丹後地区の観光拠点としての情報の発信、地域農業の振興のための『菜〇野果市』（さわやかいち）の活性化や、周期的なイベントの開催、売店の品揃え、レストランメニューの充実、サービスの向上、接客の改善などにより、集客力の向上と販売高の増加に結びつけました。

こうした努力により、（株）くみはま県の経営は、大幅に改善され、平成十六年度以降は、単年度収支では損失を出さずに、設置目的に沿った健全な経営が行われるとともに、地域振興にも大きく貢献しています。

今後もさらに民間活力と経営ノウハウを取り込み、いっそうの創意・工夫を凝らして顧客のみなさんの満足度を高めつつ、参加農家の積極的な出品の中で、約一千七百五十万円の累積損失の一扫と、地域発展の核となるべく事業の拡大・発展を図っていくことが求められています。

※『菜〇野果市』（さわやかいち）久美浜町を中心とした市内の約百二十の農家が『菜〇野果（さわやか）クラブ』を結成し、新鮮な農林産物などを直売。



相談に訪れたかた一人ひとりに、ていねいに助言される中森助教授（左）と行場客員教授（右）

技術課題の解決から経営戦略に至るまで、幅広い分野の相談に応じる

京都工芸繊維大学による『技術・経営相談会』を初開催

市と「連携・協力に関する包括協定」を締結している京都工芸繊維大学による「技術・経営相談会」（京丹後市・京丹後市地域再生協議会共催）を、十二月五日と六日の二日間にわたり開催し、相談者は専門的なアドバイスを受けました。

この相談会は、市内の事業者のみなさんを対象に、技術課題の解決から経営戦略に至るまで、幅広い分野にわたるより専門的な相談に応じようと初めて開いたものです。

初日は、九月にオープンしたばかりの「京丹後キャンパス」（網野町網野）に、織物業や機械金属加工業など五人の事業者のかたが相談に訪れ、廃材の再利用や新技術の導入、また今後の経営や新たな取り組みなどについて相談をされました。

また、二日目には、『おしかけ』技術・経営相談」と題して、市内の二事業所を訪問。技術的課題の解決や販売戦略などについての相談を受けました。

今回の相談会は、同大学地域共同研究センターの中森助教授、行場客員教授が担当。お二人は、大学の地域共同研究センターに所属され、中森助教授は「強み」を活かした「知的資産経営」について研究され、多くの企業の経営支援に携わってこられました。また、行

場客員教授は、「産学官連携コーディネーター」として、これまで多くの企業と大学との連携に携わってこられました。

お二人は「相談会を通して、京丹後市には、さまざまなアイデアを持ってチャレンジしている素晴らしいかたが多いことに驚かされました。今後も『知的資産経営』についてアドバイスさせていただくとともに、産学連携による技術的課題の解決や新技術の導入など、技術面からも京丹後市の産業振興につながるよう、研究者との橋渡し役をしっかりとらせていただきたいと思います」と話されています。

相談者からは「このような相談の機会を待ち望んでいた」、「今後もこういった機会を設けてほしい」といった声が寄せられました。

相談会では、中森助教授や行場客員教授のほか、同大学研究協力課のかたにも同席いただき、共同研究などの産学連携に向けた事務手続きについてもご相談いただけるようになっています。

また、相談後は、技術的課題について大学の研究者との共同研究や、大学の持つ技術の導入など、産学連携により課題解決を図っていくことができ、経営課題についても継続して指導を受け、経営戦略を構築していくことができます。

市では、今後もこのような相談の機会を設け、市内の事業者のみなさんを支援していきたいと考えています。

人と人を結び 地域で豊かな生活を支援

障害児(者)多機能型生活支援センター「ろむ」 京丹後市障害者相談支援事業所「結(ゆい)」開所



十月に本格施行された「障害者自立支援法」による新体系の各種サービスに対応する「障害児(者)多機能型生活支援センター『ろむ』」の「開所式」が、十二月十二日に開かれました。

同センターは、木造平屋建て約四七〇平方メートルで、四年前まで奥大野保育所として子どもたちの保育の場として利用していましたが、大宮南保育所への統合により空き施設となっていたもので、市有施設の有効利用と地域振興を目的として、市が「社会福祉法人よさのうみ福祉会」(戸田晋理理事長)へ無償で貸し出し、障害児(者)のみならずが地域で豊かな生活を送っていただく施設として新たに生まれ変わりました。

同センターでは、▽日常生活で必要な基本的な生活リズムの定着をめざす「自立訓練事業」、▽短期間の宿泊が可能な「短期入所事業」、▽障害者のかたに日中有意義に過ごしていただくとともに、小・中学生、高校生が放課後や長期休暇中を有意義に過ごすための「日中一時支援事業」、▽日常的な介護を行う「生活介護事業」を実施。また、同センター内に併設する「京丹後市障害者相談支援事業所『結(ゆい)』」において、地域で生活を支え、さらに自立を支援するため、関係機関と連携し各種相談に応じていただきます。

同センターに隣接する奥大野公民館で開かれた「開所式」には、同センターの利用者のかたをはじめ、京都府や京丹後市、地元住民のみならず、約七十人が出席。戸田理事長がこれまでの経過とともに「安定した事業運営は、障害のあるかたたちのより豊かな地域生活を実現するために必要不可欠なことであり、障害者福祉事業が今後ますます前進するようご協力をお願いします」とあいさつを行い、待望の開所を祝いました。

市長室 訪問

株式会社セントラルフルーツ
弘 敏二経営企画室長
有限会社メリケンクラブ
谷口加代子代表



今後の予定などを話される、有限会社メリケンクラブの谷口加代子代表(中央)

国営農地五箇団地へ二つの農業生産法人を誘致

峰山町の国営農地五箇団地への入植を予定されている、株式会社セントラルフルーツ(屋号「八百一」・田中勝三代表取締役社長)の弘敏二経営企画室長と、有限会社メリケンクラブの谷口加代子代表が、十二月一日に市役所を訪問されました。

株式会社セントラルフルーツは、全国の有名デパートなどを中心に青果物流通販売業を営み、昨年九月に「農業生産法人・八百一の郷」を設立。安心・安全な食料を望む消費者のニーズ(要求)から、低農薬野菜の栽培を自ら本格的に行うため、この春から五箇団地の三箇において、黒豆や万願寺(まんがんじ)唐辛子などの京野菜を中心に栽培される予定です。

また、有限会社メリケンクラブは、近畿圏で飲食業などを中心に幅広い事業を展開され、今回、「農業生産法人・株式会社ドリムフアーム」を新たに設立され、強化ガラスなどによる大型の温室棟(三ヶ程度)を整備され、通常のトマトに比べ二〜四倍の糖度で、数倍のビタミンCを含んだ「大島トマト」を、平成二十一年から生産される予定です。

両法人とも、近畿圏でまとまった広い農地を探す中、農地の利用調整が確立している京丹後市の国営団地への入植を決めていただき、将来的には栽培面積の拡大も計画されています。

中山市長は「市の農業振興、雇用の拡大につながるものと期待しています。ぜひ、応援させていただきたい」と入植を歓迎しました。

無火災・無災害を願う

京丹後市消防出初式

新年のはじまりにあたり、災害に強いまちづくりへ気を引き締めました



火災や災害のない一年であることを願う「京丹後市消防出初式」を一月七日に開催し、防災への意識を高めました。荒天のため、予定していた屋外での市行進と一斉放水は中止となったものの、午前九時三十分から京都府丹後文化会館(峰山町杉谷)で行った式典には、濱岡団長以下八百五十人の団員と消防本部職員六十人をはじめ、京都府府民労働部長や府議会議員、京丹後警察署長、航空自衛隊第三十五警戒副隊長、市議会議員など多くの来賓が参加。

式典では、中山市長が「消防団員の皆様には、日ごろから生業を持ちながら日夜をたがわず、ご家族へのご負担もある中で、献身的な消防団活動に勤(いそ)しんでいただき心から敬意と感謝を申し上げます。昨年の『七月豪雨』により丹後町間人地区では、たいへん残念なことにお二人のかたがお亡くなりになるという大規模な土砂災害が発生し、消防団員のみなさんには、発災直後から現場に駆けつけ、日夜を徹しての警戒やパトロール、捜索活動などを行って

いただいたなど、重ね重ね心から厚くお礼申し上げます。安心・安全を守る要として、まさに消防団員のみなさんのご活躍・ご活動があり、今後とも、この尊いご使命のうえに、懸命にご尽力を賜うことをお願い申し上げます。みなさんの活動に対し可能な限りの支援を

続いて、退職された幹部十二人の多年にわたる功績に対し、深甚なる感謝と敬意を表し感謝状と記念品を授与するとともに、消防・防災活動に貢献のあった団員のみなさん百五十三人に優良消防団員表彰を授与。来賓からは、消防団員の日ごろの活動またご家族のご理解・ご協力に対する感謝とねぎらいの言葉が贈られるなど、参加者全員で災害に強いまちづくりへ気を引き締めました。

させていただき、力をあわせ災害のない安全で安心に暮らせるまちづくりを実現していきたい」と式辞。また、濱岡団長が「昨年は操法の年として、たいへん長期間にわたり訓練いただきご苦勞さまでした。本年は、京都府の防災訓練が京丹後市で行われます。これまで六町それぞれで行ってきた訓練を本年からは京丹後市消防団として一本化して、あらゆる自然災害に対応できる訓練を考えたい」と訓示を述べられました。

大規模災害に備え NPO法人コメリ災害対策センターと物資の供給に関する協定を締結

市では、ホームセンターを幅広く展開されるなど大規模災害に備え、NPO法人コメリ災害対策センター(本部・新潟県新潟市)と、「災害時における物資供給に関する協定」を締結しました。

同協定では、大規模な災害が発生した場合、市の要請に基づき、同社の市内店舗や集積所の物資を優先的に有償で提供していただくものです。

同社は、新潟県中越地震などの大規模災害を経験される中、災害対策に積極的に取り組むため「NPO法人コメリ災害対策センター」を平成十七年九月に設立。関連企業を含んだ取引先と全国の出店地域の自治体との物資供給ネットワークを構築され、災害発生時に備える活動に取り組みされており、同協定は京都府内で初めてのこととなります。

一月十二日に市役所で行った「調印式」では、株式会社コメリの小林剛北陸地区本部ゾーンマネージャーから「自治体のみなさんと連携し、有事の際には災害復旧用品を必要ときに、必要な量を迅速に供給していきたい」と安心・安全なまちづくりを力強い言葉をいただきました。また、中山市長は「災害時においては、行政の力だけでは限界があり、住民のみなさん、また民間企業のかたと協働による対応が重要となります。全国的に事業を展開されている同社との協定はたいへん有意義で、安心・安全で豊かな市民生活の実現につながることを期待しています」と締結を喜ぶとともに協力を強く要請しました。

協定を締結し固い握手を交わす、株式会社コメリの小林剛北陸地区本部ゾーンマネージャー(左)と中山市長(右)



第2回 市政懇談会を開催

市では、市長などが市の施策について、直接市民のみなさんと意見交換を行うことにより、市政に対する市民のみなさんの理解と協働意識を深め、市民参画の推進に資することを目的として、「市政懇談会」を開催しています。今年度は、7月、8月の開催に続いて、10月24日から11月22日にかけて各町で、2回目の市政懇談会を開催しましたので、抜粋でご紹介します。



10月24日
大宮町
市政懇談会
意見交換

▼高齢化対策と公共交通（バス）路線の増設について

地域に若者が少なく、年々、高齢者世帯が増えていくことが予想される中で、高齢者が買物や病院などへ行くためには、公共交通はなくてはならないものです。現在もバスは走っていますが、本数や時間帯、路線など限られており、病院へ行くにも、乗り換えが必要であり、時間もかかっています。

路線の新設や福祉サービスを含めた利用しやすい公共交通網の構築をお願いします。

▼対策チームの立ち上げとともに、便利な公共交通網の構築に向けて検討していきます

本市は面積が広く、高齢者のかたも多いため、便利な公共交通網の構築は重要であり、京都府や北近畿タンゴ鉄道（KTR）とも協議を重ねているところです。バスについては、丹後海陸交通のご協力のもと、

平成十八年十月から一年間を期限として、間人循環線エリア内で、乗車料金の上限を二百円とする低額運賃バスの実証運行を始めています。また、通院・通学をはじめ、そのほかの福祉増進や観光客の利用増大に向け、市役所内部でプロジェクトチームを立ち上げ、市内全域の公共交通路線のあり方について、調査研究や企画立案、施策形成を進めています。地域の公共交通の確保のため、多くのみなさんに公共交通機関を積極的に、ご利用いただきますようお願いいたします。

▼売れる米づくりに向けた取り組み支援について

丹後は、米販売業者から食味のよい米産地として、高い評価をいただいております。特に五十河地区は、ブナ林からの清流や土質、昼夜の温度差など、米づくりに適した自然環境に恵まれています。

他府県の米産地では、特別な価格で米の取り引きをされています。農家自身の米づくりに対する努力は当然必要ですが、本地区の米も有利な販

売ができるよう、売れる米づくりのためのさまざまな指導・支援をお願いします。

▼よい品質の米づくり支援とともに、地域農産物の新たな流通体系の構築をめざします

丹後コシヒカリは、平成十五年、十六年には、全国食味ランキングで最高位「特A」の評価を受けるなど、おいしさには定評があり、関係機関と協力して、積極的に発信するとともに、おいしく、安心・安全な米づくりを、今後も市をあげて支援していきたいと思えます。また、この取り組みの継続により、安定的な販売につながると思っています。

▼歴史文化遺産の調査保存について

市内には、日本海側最大級の前方後円墳「網野銚子山古墳」をはじめ、多くの遺跡が眠っています。弥生時代後期に築造された「赤坂今井墳丘墓」は、国内最大級の墳丘や中心主体部を有し、類例のない副葬品が納められていました。この重要な墳丘墓の今後の調査や保存について、市の考えをうかがいたい。

10月26日
峰山町
市政懇談会
意見交換

▼専門家の意見を踏まえた文化財の保全・整備を進めます

市内にある多くの遺跡は、市の大切な財産であり、今後のまちづくりは、地域の特色を活かしながら進めることが重要であることから、自然環境やすばらしい景観とならんで、歴史的遺産などについてもしっかりと整備しつつ、全国に発信していく必要があると思えます。これは観光をはじめ、交流人口の増大や地域

10月30日
網野町
市政懇談会
意見交換

▼浜詰海岸整備計画の促進および外湯の建設について

平成十五年度から進めてきた浜詰海岸整備事業について、浜詰地区では、同整備計画の促進が望まれています。京都府・市・地区で調整会議をしましたが、市の態度が保留のままであり、早急に計画を進めていただきたい。

▼地区との意見交換を踏まえ、具体的な事業の着手とともに、入湯税を活用した施設整備に取り組みます

観光地として一層の誘客を図るため、浜詰海岸の素晴しい景色を活用した整備計画を

立て、また外灯整備や道路整備などのさまざまな社会基盤の整備に向け、市と区がともに取り組む必要があると考えられています。

▼平成十九年度以降の事業化に向けて、用地の確定などを進めていきます

同市道は、昭和五十二年に行った浜詰川災害復旧工事による河川の付け替えなど、公図の整理が十分ではなく、公図整理の作業を年度内に完了する予定で進めています。今後は、旧町るときに地主立会いのもと、杭を立てているのを、それを復元するとともに、再度、関係地主のかたへの確認をお願いしたいと思います。

▼市道栗脇ヤナグラ線拡幅改良について

市道栗脇ヤナグラ線の道路改良は、平成六年に「私たちは診療所」が完成して以来、

高齢者のかたの自家用車通院にとつて、危険な箇所であることから、診療所への安全な通院のため、拡幅改良工事を繰り返してまいります。

▼市道栗脇ヤナグラ線拡幅改良について

市道栗脇ヤナグラ線の道路改良は、平成六年に「私たちは診療所」が完成して以来、

▼市道栗脇ヤナグラ線拡幅改良について

市道栗脇ヤナグラ線の道路改良は、平成六年に「私たちは診療所」が完成して以来、

市政懇談会

市政懇談会



墳丘法面の保全工事中の赤坂今井墳丘墓

住民の士気の高揚にもつながっていくと考えています。当遺跡の発掘については、市内外の関係機関のみなさんと議論しているところですが、第一に墳丘の保存を考え、墳丘内部の保存のための仮保全作業を年度内に行います。今後の墳丘に係る方針としては、このままの状態を埋め戻し、国の史跡指定を受けるか、または現在の保存技術の問題から賛否両論もありますが、第一埋葬の発掘に向けた協議を進める二つの方針があります。いずれにしても、国や府、専門家の意見を大切に、しっかりと保全しつつ、丹後の大きな財産として位置づけていくことが重要であると考えて、引き続き史跡整備について、検討していきたいと思えます。

※赤坂今井墳丘墓の整備計画について、有識者のかたなどで構成する「京丹後市史跡整備検討委員会」から平成十八年十月に答申を受け、これに沿った計画を市で検討する中で、一定の方針を決定しましたので、あわせてお知らせいたします。市政懇談会で二案をご説明

従って、文化財保護法の趣旨である「文化財保護」の観点も十分尊重しながら、発掘調査（学術調査・歴史解明）

市政懇談会

11月1日 弥栄町 市政懇談会 意見交換

▼保育所再編等推進計画の進め方について

市内各地で保育所の再編が提起され、平成十八年三月には、再編予定のある保育所関係区長に対し、「保育所再編等推進計画（案）」の説明をいただきました。その後、十月三日に開催された「健康と福祉のまちづくり審議会」での審議を受けて、計画の修正があり、弥栄町の将来的な保育所のあり方についても、検討、修正されたところがありました。が、目標年次までに地元の同意がなければ、保育所の統廃合は行われないのでしょうか。その判断の時期についても、あわせてうかがいたい。

▼計画の具体的な検討にあたっては、地域のみなさんとの十分な話し合いを基本に進めていきます

検討の進め方としては、地域のみなさんや保護者のみなさんと一緒に考えながら進めています。

ることを基本としています。そのため、市民局を中心に「共に考える場」をつくりながら進める方法の検討を始めたと思います。

地元意向との調整にあたっては、同意は不可欠であり、そのための努力を続けることとし、目標年次についても、計画に掲げた年度をめざして、ご理解がいただけるよう努めていきたいと考えています。地域のみなさんからいただくさまざまなご意見を調整しつつ、「保育所再編等推進計画」について、十分な説明を行い、ご理解がいただけるよう丁寧かつ真摯に対応していきたいと思えます。

▼市独自の有害鳥獣対策事業の実施について

近年、有害鳥獣による農作物への被害が増加しています。



収穫前に、いのししによる倒伏被害を受けた水田

物への被害が増加し、防除対策として、電気柵の設置に対する補助事業を市から実施していただいています。現在、府事業に該当する地区要望のみを補助対象として事業採択されているようですが、要望箇所がたいへん多く、地元の希望に十分に添えていただけていないように思います。

そこで、市独自の施策として、府事業から外れた防除柵の設置に対する補助を実施し、より多くの農業団体の要望に添えていただくとともに、捕獲檻設置についても、推進していただきたいと思います。

▼補助率の見直しや市独自事業などを検討していきます

鳥獣による農作物被害が、市全域にわたって増加している中で、有効かつ抜本的な対策のない状態ですが、市として、できる限りの対策を行っていききたいと思えます。鳥獣被害に対しては、捕獲と防除の方法があり、防除対策につきましては、府の支援を受けつつ、積極的に取り組み、平成十八年度には、市内全域で八十四か所、総延長六三〇メートルの防除柵に対して補助

しています。少しでも多くの要望に添えるため、今後、補助率の見直しや市独自の事業を立ち上げるなど、方策を検討していききたいと思えます。

また、捕獲檻設置の推進については、管理を依頼している猟友会と協議・検討していきたいと思えます。

11月21日 丹後町 市政懇談会 意見交換

▼住民参加型の市公募債の発行について

地方自治体による地方債の発行は、議会の承認があれば、発行できるように聞いています。京都府内では、京都府をはじめ城陽市、綾部市などが住民参加型の公募債を発行されています。

市財政の厳しい中、今後のまちづくりにおいては、行政と市民が知恵を出しあい、市民本意の行財政改革を進めることが重要であり、市民一人ひとりが郷土のまちづくりに参加し、市の財政を知る一つの機会となると思うので、住

民参加型の公募債発行について、検討していただきたい。

▼市政への市民参加を推進するため、「ミニ公募債」の発行を検討します

市民のみなさんの市政への参加意識や事業に対して主体的に関わっていただくことは、今後のまちづくりにおいて、とても重要であり、財政の健全化を図る上でも必要であると思えます。市役所においても、住民を向いて施策を進めることが必要であり、平成十九年度予算編成方針で、市民協働のまちづくりを推進するため、「住民参加型ミニ公募債」の発行を検討し、市民参加を一層推進することを打ち出しています。ミニ公募債を市民参加の有効な手段とするため、具体的にとのような事業に活用するのかが、検討していききたいと思えます。

▼原材料支給に重点を置いた協働作業による村づくり推進について

市では、「市民協働のまちづくり」を推進されていますが、生活環境を整備するための道路・水路の維持管理などを行

うハード事業についても、市民協働による事業実施を推進していただきたい。住民が協働して取り組むことは、地域を守り、ふるさとに愛着を感じる一つの方法であると考えます。ある自治体では、行政からの機械借り上げ料補助や原材料支給により、できる限り住民が協働で村づくりを進め、公共工事を抑制し、福祉事業にあてる取り組みをされています。

毎年、地区要望などを市民局へ提出しますが、すべての採択がいただけないため、自分たちで、ハード事業に取り組もうと考えています。そのため、現行の原材料支給などの予算を拡大し、住民協働による村づくりの推進をしていただきたい。

▼市内の全体的なバランスを考慮しつつ、引き続き予算確保に努めていきます

市では、さまざまな取り組みを市民協働で進めていききたいと考えています。例年、少しずつではありますが、原材料支給の予算を増額し、事業を進めています。

住民協働によるハード事業

11月22日 久美浜町 市政懇談会 意見交換

▼佐野地区の水洗化計画と受益者負担などに対する支援策について

早期に事業効果をあげるため、供用開始後は全戸接続に協力していかなくてはならないと思えますが、経済的な負担の心配もあり、標準的な宅内工事の費用と工事費用に対する補助金制度についてうかがいたい。

また、各集落の公民館についても、早期接続を進めなくてはならないが、その際の分担金や負担軽減措置、公民館

への取り組みは、旧町によって、進んでいる地域と、そうではない地域があり、また地域によっては、高齢化による労働力の提供が困難な状況があるなど、市内の各地域の足並みをそろえ、バランスを図る必要があるため、早急には難しいですが、今後とも、予算確保に努力していききたいと思えます。

の改修工事についての補助金などについてうかがいたい。

▼全国の取り組みを参考に「市上下水道事業審議会」で、審議、検討していきます

宅内工事にかかる費用は、家屋の大きさや、構造によって異なるため、金額をお示しすることは難しいですが、受益者分担金の軽減措置として、三十二万円のところを供用開始後一年以内に水洗化した場合には二十七万円、二年以内の場合には二十八万円、三年以内の場合には三十万円と軽減しており、早期に接続していただくほど、負担を少なくしています。また、工事費用に対する補助金制度については、旧町のときには、利子補給や融資制度がありました。が、現在、市の補助金制度は設けていません。市では、水洗化推進のため、今後、市上下水道事業審議会において、旧町のときの取り組みや、全国の取り組みなどを調査し、水洗化推進に向けた取り組みを検討していききます。

なお、地区の集会所施設の下水道接続のための工事費用に

市民のみなさんの市政への参加意識や事業に対して主体的に関わっていただくことは、今後のまちづくりにおいて、とても重要であり、財政の健全化を図る上でも必要であると思えます。市役所においても、住民を向いて施策を進めることが必要であり、平成十九年度予算編成方針で、市民協働のまちづくりを推進するため、「住民参加型ミニ公募債」の発行を検討し、市民参加を一層推進することを打ち出しています。ミニ公募債を市民参加の有効な手段とするため、具体的にとのような事業に活用するのかが、検討していききたいと思えます。

▼同府道の整備事業促進に向け、府へ引き続き実行あるかたちで要望していききます

道路整備については、市内から多くの要望をいただいております。市内全体の道路整備を効果的に促進するため、たえず府とも相談し、事業に取り組んでいます。今回、実際に発生した交通事故のお話や、通学時の安全性が求められるお話など、重要な要素のある道路であるとお聞きしました。同府道については、現在、大井・関間の道路拡幅を府の方で計画し、関の交差点改良を実施していただいています。また、大井までの区間については、道路改良計画に基づき、地元区との協議や、現地立会いを行いました。府からは、今後、地元区の同意を得て、用地買収を完了後、工事に着工することとなると聞いています。久美浜を南北に縦断する重要な路線であり、全区間の道路整備は、市としても重要と考え、整備促進について強力に要望していききたいと思えます。



早期拡幅改修の求められる府道「野中丹後神野停車場線」

“集い・ふれあい・学ぶ” 地域活動の拠点を整備

矢田公民館



峰山町の矢田地区で、地域活動の拠点であるとともに、災害時の避難場所などの機能をあわせもつ新たな「公民館」がこのたび完成し、二月十日に「竣工記念式典」が行われました。

旧矢田公民館は、手狭なうえ、築百年程度（昭和三十二年に移設）が経過し老朽化が激しく安全性にも問題があるとともに、災害時の避難場所に指定されながら豪雨時には地区内で一番早く浸水することなどから、住民のみならず新たな施設整備が強く望まれていました。

今回完成した公民館は、木造瓦葺き一部二階建てで、延べ床面積は二四八・三八平方メートル。「和（なごみ）」の間・「集（つどい）」の間と名づけられた二間続きの和室をはじめ、料理・実習場「膳（ぜん）」や会議・研修室「柚（そま）」などを完備され、また高齢者のかたや身障者のかた向けのトイレやスロープ、手すりも多く取り付けられ、利用者の立場に立ったやさしさあふれるつくりとなっています。

山本憲男区長は「永年の区民の願いであり、たいへんうれしく思います。福祉活動をはじめ、さまざまな公民館活動で大いに利用していただきたい」と完成の喜びを話されていました。



竣工式には、多くの区民のかたが参加され、待望の完成を祝いました

元小学校長

故清水満さん（大宮町周枳）

正七位瑞宝単光章を受章

元小学校長の故清水満さん（大宮町周枳）が「正七位瑞宝単光章」を受章されました。

清水さんは、昭和四十八年四月の網野小学校を振り出しに、約三十二年間の永きにわたり、教育現場において優れた教育実践を積み、大きな足跡を残されました。

また、この間、京都府丹後教育局をはじめ峰山町教育委員会においては、社会教育主事として社会教育の発展に卓越した指導力を発揮され、その行政職としての経験と実践を活かし、その後の学校教育現場において大いに手腕を発揮されました。

特に、平成十四年からは小学校長として、少人数指導の中で大いに成果をあげられるとともに、体育指導を通して小・中学校の連携に取り組まれるなど、学力・体力両面からの充実にご尽力をいただきました。さらに社会教育主事としての経験とともに、持ち前の快活な人柄や広範な人脈を最大限に活かされ、母親委員会による読み聞かせをはじめ、教育講演会、学校遊具親子整備事業、各学年親子行事などのPTA活動の活性化にも多大なご貢献をいただき、その功績が高く評価され受章されたものです。



故清水 満さん

神野小学校PTA

「平成18年度優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞

神野小学校PTA（大島俊之会長・七十五人）が、地域と連携したきめ細やかな活動が高く評価され「平成十八年度優良PTA文部科学大臣表彰」を受賞されました。

同PTAは、子どもたちが健やかに成長・発達することを願い「地域で地域の子どもたちを育てる」を合言葉に、学校・PTA・公民館が一体となり、地域のよさを活かした農作業体験や海遊びなど、地域の児童だれでも参加でき、さまざまな活動を行う「神野チャレンジ教室」の運営に協力し、毎週土曜日に継続して開催されています。

また、事件や事故などから地域ぐるみで子どもたちを守るため、学校・PTA・区長会・駐在所・各種団体が協力して「神野つ子セーフティネットワーク」を発足。子どもへの安全確保に対する協力チラシを校区全戸へ配布されるとともに、児童作成のシンボルマークや自治会のシンボルマーク・ステッカーの作成などの取り組みを展開されるなど、常に地域と連携を密にした活動を積極的に進められ、それらの取り組みが顕著であり受賞されたものです。

大島会長は「今年度だけでなく、これまでからの地域あげての取り組みを高く評価いただき、神野地区全体が受賞したものとしまして、たいへん光栄です」と話されていました。



「神野チャレンジ教室」での通学合宿

表彰

平成18年度京都府青少年健全育成成功労者等知事表彰を受賞

小野甚一さん（峰山町杉谷）

小野甚一さん（峰山町杉谷）は、日本ボーイスカウト中第二団の指導者・役員として、また日本ボーイスカウト京都連盟の地区役員・理事として、多くの青少年を指導育成されるなど、ボーイスカウト運動を通して、青少年の健全育成に多大にご貢献いただいています。

隅倉良雄さん（峰山町長岡）

隅倉良雄さん（峰山町長岡）は、峰山町長岡緑の少年団の結成時から団長として、「緑の募金」活動や植樹活動、野外活動、河川の美化・緑化、水質調査活動などの中心的役割を担い、同活動を通して、青少年の健全にご尽力をいただいています。

久美浜高等学校野球部

小坂一文さん・田家源也さん 田中健太さん・松田弘晃さん

久美浜高等学校野球部の小坂一文さん・田家源也さん・田中健太さん・松田弘晃さんの四人は、部活動が終わり帰宅途中、水路に落ち骨折され身動きのとれない高齢者のかたを発見し、力をあわせて救出された行動が、青少年の模範として高く評価され受賞されました。



田中健太さん・小坂一文さん・松田弘晃さん・田家源也さん（左から）



小野甚一さん（右）
隅倉良雄さん（左）

【第4号】

「京丹後市まちづくり基本条例の制定をすすめる会」便り

～市民による市民のためのまちづくりをめざして～

条例制定に向けて 各種団体から貴重な意見

「京丹後市まちづくり基本条例の制定をすすめる会」は、十一月二十八日に市役所会議室で、市老人クラブ連合会、市連合婦人会、市PTA協議会、市文化団体連絡協議会、丹後観光協会連絡協議会、市体育協会の代表のかたと、まちづくりやまちづくり基本条例に関しての懇談会を行いました。

懇談会では、「住民がまちづくりの意識を持つことが重要であり、そうなるためにはどうするかをみんなで考えなくてはならない」、「この条例を制定することで、まちづくりがよい方向に進むような条例にしてほしい」などの貴重なご意見をいただきました。

すすめる会では、このようなご意見を大切に、今後もできる限り多くの市民のみならずの懇談などによって、まちづくり基本条例がより多くの市民のみならずの理解を得るものとなるよう、取り組みを進めています。

専門の大学教授から助言

十二月二十三日のすすめる会の全体会議に、同志社大学大学院総合政策科学研究科の新川達郎教授をお迎えし、まちづくり基本条例がどのようなものであるか、そして、これからのまちづくりを考えていくうえで、まちづくり基本条例をどのようにつくっていくのかなどについて、主に次の点について説明をしていただきました。



同志社大学大学院総合政策科学研究科 新川達郎教授（中央）が助言

- ◆まちづくり基本条例は、将来に向けてどのような地域をつくっていくのか、それを導くような条例として位置づけられる。
- ◆地方自治が重要視されている中で、それぞれの地域ごとの自治のあり方を自分たちでもう一度考えていくことは重要なことであり、その理念やルールを高々に宣言する意味は深い。
- ◆この条例をつくるにあたっては、住民参加が大前提であるとともに、できる限り多くの市民のみならずがこの条例に関心を持つことが重要である。

また、すすめる会で検討しているまちづくり基本条例に盛り込むべき項目の素案について、京丹後らしさをどのようによく反映させていくのかという大きな論点をいただくとともに、細かな部分でも的確でいいねいな助言をいただきました。

すすめる会では、今回の新川教授の説明で、この条例に関する理解をさらに深めるとともに、助言を参考に、条例制定に向けて、より一層がんばっていくことを確認しました。

文化財の有効な保存・活用をめざし

「京丹後市文化財マスタープラン」を策定

京丹後市は、豊かな自然をはじめ、自然環境や地理的環境との深い関係により形づけられた、優れた歴史と文化を有しています。これらの自然および歴史的な文化遺産を後世へ望ましい形で守り伝えていくことは、京丹後市に課せられた責務といっても過言ではありません。そこで市では、誇るべき歴史を掘り起こし、文化財の総合的な保存と活用を図る方針を示す「京丹後市文化財マスタープラン」をこのたび策定しました。

テーマ

京丹後の歴史と文化
京丹後市まるごと
歴史と文化の博物館

市内の遺跡からは、「王莽」（おうもう）の貨幣「貨泉」（かせん）や「青龍三年」銘・方格規矩四神鏡など数多くの遺物が出土し、さらに日本海沿岸最大級の前方後円墳である網野銚子山古墳、神明山（しんめいやま）古墳をはじめ、函石浜遺跡、産土山（うぶすなやま）古墳などの国指定



引野教育長（左）に答申書を手渡される「京丹後市史跡整備検討委員会」の小野山節委員長（中央）と森四郎副委員長（右）

史跡や、世界でも二例という「漢青（ハン・ブルー）」のガラス管玉が出土した赤坂今井墳丘墓が存在するなど、一千二百の古墳群、山城や集落も含め六千か所とも言われる膨大な遺跡が存在します。このような中、本市のまちづくりと連動し、重要かつ特徴的な史跡の整備・活用を図るため、平成十七年一月に「京丹後市史跡整備検討委員会」（小野山節委員長）を立ち上げ、慎重に審議いただき、答申をいただきました。市では、その答申に基づき「京丹後市文化財マスタープラン」を策定。今後同プランを基に、具体的な事業に取り組み、先人が残してくれた丹後の歴史遺産を大切にしまちづくりを進めていくこととしています。

ネットワーク構想

市内に点在する文化財を次の三つの視点からネットワーク化を図り、活用の相乗効果を進めます。

- 人によるネットワーク
郷土の文化財を介し、地域の活動団体などの要求を取り入れた人の和、人づくり、まちづくりを図ります。
- 道によるネットワーク
文化財の拠点をめざすネット

当面の方針

■市内の文化財を知ってもらう取り組みの推進
市民のみならず、文化財への理解や意識の高揚を図っていただくため、さまざまな情報媒体を活用し、文化財保護や整備・活用に関する周知、普及活動を推進していきます。

■資料館の充実
インターネットを利用した「京丹後市歴史文化バーチャル（仮想）博物館（仮称）」を立ち上げることをはじめ、現在の資料館の展示内容の体系化、整理充実を図ります。

市民協働による

文化財保護の仕組みづくり
文化財保護を推進するためのボランティアの育成とともに、文化財の調査から整備・活用を行うための市民のみならずの協働体制の構築を推進していきます。

市の歴史を解明するための

文化財調査の実施
基本的調査を充実させ、市史編さん事業と連動した総合的文化財調査を進めていきます。

事業期間

同プランの計画年度は、当面は平成十八年度から平成二十七年までの十年間とし、事業の内容や場所などは適時決めていくこととしています。事業の進捗状況などを考慮し、随時事業内容を見直していくこととしています。

重点整備対象

文化財は、市にとって貴重な財産ですが、それらすべてを同等に整備と活用を図ることは非常に困難となります。そこで、中でも学術的視点、市を代表する文化財という観点などから、本プランでは特に重要と考えられる国指定史跡（函石浜遺跡・網野銚子山古墳・産土山古墳・神明山古墳）をはじめとした、二十か所の史跡・遺跡、天然記念物（断層・鳴き砂など）を重点整備の対象として、その保存と整備・活用の方針を示しています。

早期整備対象

また、重点整備対象のうち、市の歴史と文化を考えるうえで重要であり、また市の象徴的文化財と言える、函石浜遺跡・網野銚子山古墳・赤坂今井墳丘墓・湧田山古墳群については早期に可能な限りの整備が望まれることから早期整備対象としています。

早急整備対象（順不同）

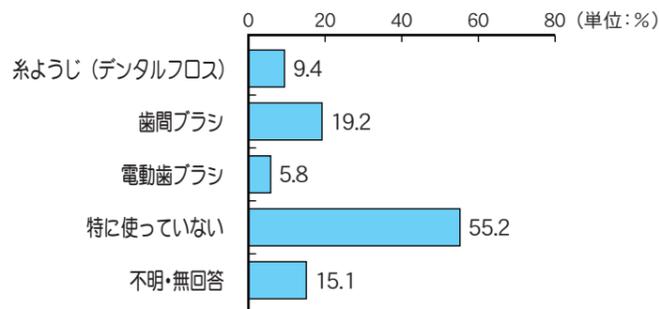
函石浜遺跡	各種調査を体系的かつ継続的に実施し、遺跡の解明を行う。遺跡の浸食策を講じるとともに、海浜植物などの調査を行い、保全また景観の維持を図る
網野銚子山古墳	「銚子山古墳整備基本計画」を踏まえ整備を進めるため、各種調査を実施し、得られた知見をもとに必要な箇所における史跡の追加指定や見学施設の整備を行う
赤坂今井墳丘墓	国や京都府の史跡に指定するなど遺跡の保存を図る。当面は遺構の保護を目的とした仮整備を実施。将来的には周辺関連地の公有化を図るなど、適切な整備手法を検討したうえ整備を行う
湧田山古墳群	前方部の崩壊が懸念され、保全対策を検討。発掘調査を実施し、結果によっては史跡の追加や用地の公有化を図り、遺構の保存を図る。適切な処置を行い墳丘の保全を図るとともに、アクセス道路や説明板などを設置する

重点整備対象（順不同）

郷村断層	生きた防災教育の教材として活用するため、「樋口断層」では既存保護覆屋と断層露出展示施設の保守をはじめ、解説施設などを充実。「生野内断層」では、断層の保護覆屋へ至る進入路の整備とそれに伴うサインなどを充実
湯舟坂2号墳	周辺にある古墳群の分布調査などの基礎調査や近隣の見学箇所の掘り起こし、周辺の完存古墳の整備を行い誘客を促す。また、将来的には駐車場やトイレなどの便益施設、出土遺物の実物またはレプリカの展示施設の整備を検討
高山12号墳	将来的には、アクセス道路と案内標識、駐車場などの便益施設整備を図るため、用地の公有化を順次行う
復元岡1号墳	説明板、案内標識など、生きた教材としての整備を図る
離湖古墳	案内板や道標などの整備とともに、周辺の眺望を確保し、見て体感できる環境づくりを図る
浜詰遺跡	案内標識などの整備とともに、周辺旅館と連携を図りながら復元された竪穴住宅を活かしたイベントを実施
大成古墳群	石室石材の崩壊や破損などを調査し、適切な遺構の保存方法や周辺遺跡も含めた活用方法を検討。老朽化した説明板の改修も図る
遠處遺跡群 鍛冶工房跡	遺構の顕在化を図るとともに、体験学習などのイベントの開催を検討。また、近隣の丹後あじわいの郷との連携を図る
産土山古墳	出土品のレプリカを作成するなど、遺跡価値の周知方法を検討。古墳および周辺の公有化を行い、駐車場などの整備を図る
扇谷遺跡	地山崩壊部は早急に補修などの対応策を講じ、用地の公有化を進めて遺構の顕在化を図る
途中ヶ丘遺跡	可能な限り遺構の顕在化を図るとともに、名称板や説明板を充実
奈具岡遺跡	アクセス道路や道標、解説板などの整備を進め、出土遺物は資料館などで公開展示する
大田南5号墳	京丹後市、京都府、国の史跡に指定し遺構の保存を図り、遺跡地の公有化を検討するなど計画的に保存する。アクセス道路や見学用園路の整備、説明板などの充実を図る
琴引浜	鳴き砂保護のボランティア団体や環境保護団体などと連携を図り、鳴き砂保護と普及活動を行っていくための「鳴き砂保護連絡協議会」などの組織化を図る
神明山古墳	遺構の整備に向けた基礎調査を実施。墳丘の形態をわかりやすくするとともに、神社の裏山の一部としてふさわしい植生の適正化を図る。近隣の産土山古墳や古代丹後の里資料館などとのネットワークを図る
新戸古墳	遺構の保護と安全確保のため、早急に古墳南側崖の崩落防止対策および石室崩落防止対策を行う。保存活用のための各種調査を実施するとともに、アクセス道路や見学用園路の整備、また説明板など学習施設の設置を行う
片山古墳	説明板や道標の整備を行うとともに、近隣の神明山古墳や産土山古墳とのネットワークを図る
大宮賣神社境内	景観などに配慮した説明板などの整備を図る。必要に応じて各種調査を行い、結果によっては史跡の追加指定や用地の公有化を検討する
黒部銚子山古墳	必要に応じて発掘調査や測量を行い、結果によっては史跡の追加指定や用地の公有化を行う。適所に駐車場やトイレなどの便益施設の設置を検討する

Q 歯ブラシ以外に使用している清掃用具がありますか（複数回答）

「歯ブラシ以外に使用している清掃用具がありますか」と尋ねたところ、「特に使っていない」が55.2%と群を抜いて高く、次いで「歯間ブラシ」が19.2%となっています。

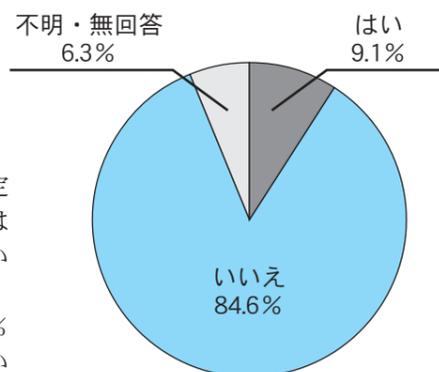


「歯ブラシ以外に使用している清掃用具がありますか」という問いを男性の年代別で見ますと、「特に使っていない」という回答は、どの年代においても5割以上と高くなっており、特に20歳代、30歳代でそれぞれ77.4%、75.7%と7割以上となっています。

また、女性の年代別で見ると、「特に使っていない」という回答はどの年代においても高くなっており、特に20歳代で69.5%と6割以上となっています。

Q 歯に不都合がなくても、定期的にかかりつけの歯科医院で歯の定期健診を受けていますか

「歯に不都合がなくても、定期的にかかりつけの歯科医院で歯の定期健診を受けていますか」と尋ねたところ、「はい」の9.1%に対して、「いいえ」が84.6%と高く、8割以上のかたが歯の定期健診を受けていないことがうかがえます。



「歯に不都合がなくても、定期的にかかりつけの歯科医院で歯の定期健診を受けていますか」という問いを男性の年代別で見ますと、「はい」という回答は、30歳代で11.4%と高くなっています。一方、「いいえ」という回答はどの年代においても7割以上と高くなっています。また、女性の年代別で見ると、「はい」という回答は40歳代で13.8%と高くなっています。一方、「いいえ」という回答はどの年代においても7割以上と高くなっています。

80歳（75～84歳）で20本以上、60歳（55～64歳）で24本以上自分の歯を有するかたの割合をみますと、全国の実績値（平成5年歯科疾患実態調査）では「80歳で20本以上」が11.5%、「60歳で24本以上」が44.1%であるのに対し、京丹後市では25.1%、49.4%と、両年代ともに高くなっています。

一方、歯の本数を性別および年代別にみますと、男性・女性ともに20歳代、30歳代、40歳代では「28本以上」という回答が5割以上となっているのに対し、50歳代、60歳代、70歳以上では「28本未満」（「0～9本」、「10～19本」、「20～27本」の計）という回答が、5割を超え大幅に多くなっています。

また、歯間部清掃用器具を使用するかたの割合では、全国の実績値（平成5年保健福祉動向調査）の40歳（35～44歳）が19.3%、50歳（45～54歳）が17.8%であるのに対し、京丹後市では40歳（35～44歳）が24.2%、50歳（45～54歳）が20.5%と高くなっています。

さらに、定期的な歯科健診を受診されるかたの割合をみると、全国の実績値（平成5年保健福祉動向調査）では60歳（55～64歳）が16.4%であるのに対し、京丹後市では8.7%と低くなっています。

国のデータが少し古い参考程度となりますが、40歳代、50歳代、60歳代における歯間部清掃用器具を使用するかたの割合や、定期的な歯石除去や歯面清掃を受けるかたの割合は全国値よりも、京丹後市が高くなっています。しかし、市全体で見ると、歯間部清掃用器具を特に使っていないかたや歯石の除去や歯面清掃を受けていないかたの割合は高くなっています。さらに、かかりつけ医による定期的な歯科健診を受けているかたも少なく、定期的な歯科健診の受診や補助具の使用など、口腔ケアに対する意識の向上が必要です。

※このアンケート調査のすべての設問については、市のホームページ「健康ステーション」に「京丹後市健康増進計画アンケート調査の結果概要」として掲載していますのでご覧ください。

**健康増進計画アンケート調査
結果の概要 ⑥**

- 対象者および抽出方法
市内に在住の成人男女 3,000人（無作為抽出）
- 調査期間 平成17年12月1日～12月15日
- 調査方法 郵送による配布・回収
- 回収結果 1,738人／3,000人
- 回収率 57.9%

Q 現在、あなたの歯は何本ありますか（差し歯も自分の歯として考えます。大人の歯は全部で28～32本あります）

【上の歯の本数】

上の歯の本数をみると、「10～14本」が46.5%と最も高くなっています。

本数	人数	割合
0～4本	233人	13.4%
5～9本	159人	9.1%
10～14本	808人	46.5%
15本以上	219人	12.6%
不明・無回答	319人	18.4%
計	1,738人	100.0%

【下の歯の本数】

下の歯の本数をみると、上の歯と同様に「10～14本」が46.9%と最も高くなっています。

本数	人数	割合
0～4本	186人	10.7%
5～9本	181人	10.4%
10～14本	815人	46.9%
15本以上	239人	13.8%
不明・無回答	317人	18.2%
計	1,738人	100.0%

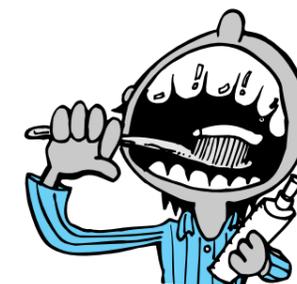
【上下の歯の本数】

上下の歯の本数をみると、「28本以上」が32.8%と最も高く、次いで「20～27本」が27.1%となっています。

本数	人数	割合
0～9本	205人	11.8%
10～19本	194人	11.2%
20～27本	471人	27.1%
28本以上	570人	32.8%
不明・無回答	298人	17.1%
計	1,738人	100.0%

上下の歯の本数を男性の年代別で見ますと、「28本以上」という回答は、20歳代、30歳代、40歳代で5割以上と高く、「20～27本」という回答は50歳代、60歳代で高く、「0～9本」という回答は、70歳以上で高くなっています。

また、女性の年代別で見ますと、「28本以上」という回答は、20歳代、30歳代、40歳代で5割以上と高く、「20～27本」という回答は、50歳代、60歳代で高く、「10～19本」という回答は、70歳以上で高くなっています。



京丹後人権擁護委員のみなさん

(平成19年1月1日現在・敬称略)

氏名	住所	電話番号
荻野 弥生	峰山町荒山	62-1973
中西 義明	峰山町長岡	62-2304
長谷川 誠	峰山町五箇	62-2118
藤原 宣生	峰山町内記	62-2396
馬淵 敏子	峰山町安	62-0682
浅田 郁子	大宮町明田	64-3486
橋田 清志	大宮町河辺	64-2872
原 諦子	大宮町口大野	68-5001
安田 昌洋	大宮町奥大野	64-2134
梅田 保久	網野町網野	72-2143
関 有子	網野町島津	72-0215
引野 俊一	網野町郷	72-2610
引野 留子	網野町網野	72-4488
松本 敦子	網野町郷	72-2917
祝前イソ野	丹後町谷内	76-0629
小倉美喜雄	丹後町鞍内	76-0548
中江 恒二	丹後町間人	75-0857
辻村世津子	弥栄町吉沢	65-3106
平林與志朗	弥栄町井辺	65-2374
吉岡 敦子	弥栄町溝谷	65-2020
井上 宗円	久美浜町湊宮	83-0154
高橋 弘	久美浜町	82-0417
西田 晴子	久美浜町芦原	85-0396
山添美智恵	久美浜町金谷	85-0584

【写真は人権擁護委員による川上小学校での人権教室】

人権擁護委員をご存知ですか？

人権擁護委員は

みなさんの身近な相談相手です

人権擁護委員は、常に住民のみなさんの人権が侵害されないように注意を払い、もしも人権が侵害されたときには、被害者の救済のために速やかな措置をとります。

京丹後市には、人権擁護に深い理解のある民間のかたを市長が推薦し、法務大臣から委嘱された二十四人の人権擁護委員がボランティアとして活躍されています。

人権擁護委員は、いつでもみなさんの相談に応じたいです。相談は無料で、難しい手続きは必要ありません。また、秘密は固く守られますので、お気軽にご相談ください。



市民のみなさんの相談に応じていただくとともに、人権の大切さを訴える街頭啓発などさまざまな活動を行っています。【写真は人権擁護委員による川上小学校での人権教室】

患者さん本位の医療提供をめざし 弥栄病院 院内集談会

患者さん本位の医療提供をめざす弥栄病院では、院内のさまざまな取り組みや医療サービスなどに関する情報を職員が共有する「院内集談会」を、十二月八日に弥栄庁舎会議室で開催しました。同集談会は、医療の質・サービスの向上を図るとともに、ほかの部署などがどのような取り組みを行っているかを知り、職員が一丸となつてよりよい医療の提供をめざそうと数年前から開催しているものです。

今回の集談会では、療養型病棟の介護福祉士や看護師が、残存機能の活用と療養生活を活気あるものとなるように、遊びやゲームを取り入れたリハビリテーション「遊びリテーション」の中に、新たにラジオ体操を導入したことにより、患者さんの意欲の向上とともに、快眠や食欲が上がった効果が報告されました。また、これまでの常識では機能改善は考えられないと思われ、発症から一年八か月が経過した患者さんに、新たな装具療法を取り入れたことにより、車いす生活から脱却し

各事例の発表後には活発な意見交換が行われました



あなたの健康
応援します



男性ホルモンのひみつ

去勢牛はおいしい

最近の狂牛病を取り巻く報道の中で、私が特に興味を持ったことの一つは、「肉牛はほとんどがオス牛で、しかも生後三か月ごろに去勢されている」という衝撃的な事実でした。去勢というのは、精巣(睾丸)を摘出する手術のことです。

男性ホルモンの九五%以上が精巣でつくられているので、去勢により体内の男性ホルモンの大部分が取り除かれることになり、脂肪が多く混じって(霜降り)、柔らかくおいしい肉をつくる



久美浜病院 泌尿器科
浦野 俊一 医師

平成4年 京都府立医科大学卒
日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医
平成12年から久美浜病院勤務

心も男性化させるための主役を担うホルモンで、次のようなはたらきがあります。①胎児期に性器を男性型に誘導する。②思春期には男性ホルモンの分泌が増加し、第2次性徴を引き起こす。すなわち、皮下脂肪を減少させ、筋肉や骨を太く・強くし、ひげ・恥毛・脇毛を発生させ、甲状軟骨(のど仏)を発達させ、声を大きく(声変わり)させる。

「去勢」は「精巣だけを切り取る」ことを意味します。従って、彼らは性交が可能です。こうして、ポロイソプラノに大人の声量とテクニクを兼ね備えたカストラートがつけられました。

魅惑のカストラート
十年前「カストラート」という映画が公開され話題となりました。男性歌手であるカストラートは、三オクターブ半の声域と卓越した歌唱法により多くの聴衆を虜にしたと言われます。彼らは、声変わりの始まる前に去勢されました。この場合の「去勢」は「精巣だけを切り取る」ことを意味します。従って、彼らは性交が可能です。こうして、ポロイソプラノに大人の声量とテクニクを兼ね備えたカストラートがつけられました。

- 別表 男性更年期障害の症状
1. 性欲(セックスをしたいという気持ち)の低下
 2. 元気がなくなる
 3. 体力や持久力の低下
 4. 身長が低くなる
 5. 日々の楽しみが少なくなる
 6. 物悲しい気分になり怒りっぽい
 7. 勃起力が弱くなる
 8. 運動をする能力が低下したと感じる
 9. 夕食後うたた寝をする
 10. 仕事の能力が低下したと感じる

最後のカストラートと言われるアレキサンドロ・モレスキは、一九二二年に亡くなりましたが、今もその晩年の録音を聞くことができるそうです。
男性更年期障害の夜明け
今、男性更年期障害が注目されています。以前は、更年期障害といえば女性特有のものと考えられていましたが、男性にも女性と同じような更年期障害が存在し、多くの男性が苦しんでいます。この研究が、ようやく本格的に進められたところでは、盛夏に逆戻りはできません。だからこそ深まり行く秋を存分に味わい、豊かな第二の人生を迎えるためにはどうしたらよいか。その研究が、ようやく本格的に進められたところでは、

提
言

「地域振興協議会」 市長に地域振興施策を提言

旧6町単位で設置され、まちづくりや教育などについて提言する「地域振興協議会」から、地域の振興施策について提言書をいただきました。各協議会においては、平成16年10月の設置から2年間にわたり、地域の現状や課題について、13回から15回にわたってたいへん熱心に協議を行っていただき、地域の振興施策として取りまとめられました。今回は、久美浜町および丹後町の提言書の概略についてご紹介します。なお、市のホームページに、各協議会の提言書を掲載しています。

久美浜町地域振興協議会 提言

- 【提言1】産業振興について
 - 美しい自然景観の創造
 - 街なみ環境整備事業の推進
 - かぶと山園地の整備（かぶと山裾野における宿泊施設などの整備）
 - アメニティー久美浜における日本庭園整備
 - 地域資源の掘り起こし
 - 支援施設
 - 朝市の開設
 - 直売施設の整備
 - 新たな土産物の育成
 - 食事処・土産処の整備
 - とらフグ養殖
- 【提言2】教育について
 - 児童・生徒の安全確保
 - 地域による見守り隊の発足
 - ここにこカールの増車
 - 地域に開かれた学校と地域の支援
 - 祖父母参観などによる地域との交流
 - 地域と一体となったものづくり（野菜づくりなど）による

- る交流
 - 児童・生徒の減少と学校施設の活用など
 - 学校の統廃合などの検討
 - 歴史遺産・文化など地域資源などの学習支援による交流
 - 公民館活動と地域活性化協議会
 - 地域自治活動を総括する複合施設の整備
 - 地区センターの整備・充実
 - 地域活性化協議会および地域公民館に対する支援
- 【提言3】福祉について
 - 保育所について
 - 保育所の統廃合の検討。実施する場合は、保護者のニーズを重要視し、乳児保育、延長保育などに対応できるように施設を充実させるとともに、通所方法を含み、子どもの安心・安全面に配慮していただきたい。
 - 認定子ども園を含む幼保一体化の検討
 - 高齢者福祉などについて
 - 高齢者福祉の原点は「支えあい」。保健・医療・福祉のネットワークの強化を基本とし、早期発見・早期治療のための知識および健診の普及、介護

- 予防の推進、認知症高齢者への支援
 - 安心して介護を受けられる体制づくり
 - 若年期からの健康診断と老人クラブなどへの積極的な参加などによる健康増進
 - ショートステイにも配慮した特別養護老人ホームの整備
 - 社会福祉協議会の福祉委員制度の充実
 - 障害者福祉サービスの基盤整備
 - 地域包括医療のより一層の推進
- 【提言4】道路網の整備について
 - 久美浜町は、京丹後市の西の玄関口に当たり、地域の豊かな自然、特色ある文化、歴史などを活かし、地域の振興を図ろうとしているが、そのためには、道路網の整備が根幹であると思っている。特に、高速道路は、ネットワーク化が図られてこそ、その機能が最大限活かされるものであり、現在、市内を縦断する幹線道路として、鳥取豊岡宮津自動車道が整備・計画されているが、一刻でも早く豊岡市までの早期整備を強く

望むものである。このことは、一昨年の台風二十三号の影響により、一時、陸の孤島と化し、市民に大きな不安が広がったことから、その解消を図るためにも、国・府道の代替機能としての効果も期待するものである。

また、本町内には、国道178号、312号、482号とこれに連絡する十一の府道で道路網が形成されており、京都府・京丹後市のご尽力により、鋭意整備していただいておりますが、まだ未整備の箇所が多くある中で、一層の道路整備の促進を図っていただきたい。特に、河梨峠（国道178号）が通行止めになれば、豊岡市方面への通行に大きな支障が出るため、一昨年の台風二十三号を教訓として、兵庫県側とを結ぶ道路（三原峠⇨府道香美久美浜線、イザミ峠⇨府道町分久美浜線など）などについて、北部地域の特殊事情である「積雪」にも配慮していただき、特段の整備促進をお願いするものである。

丹後町地域振興協議会 提言

- 【提言1】観光振興について
 - 観光振興について
 - 「海の駅」構想として、中浜漁港施設の活用を検討。
 - 魚介類の有料採取エリアの設定を検討。
 - 間人漁港の「せり市」、「手押し車行商」などの風景を、観光資源として積極的に活用。
 - 観光客や都市住民と一体となった、自然をそのまま残す「環境保全イベント」の創設。
 - 四季の産物を利用し、名物料理を研究する。（旅館共通料理として統一し、イメージを高める）
 - 経ヶ岬灯台園地の再整備。
 - 花のある風景コンテストなどを実施し、花いっぱいのもちづくりを進める。
 - 丹後杜氏（宇川杜氏）の伝統を活かし、酒づくりと農業体験を連動させる。
 - イベントについて
 - 丹後町のイベント全体を検討する「企画検討委員会」を設立し調整を行う。委員には、子どもや女性など各界各層か

- ら企画してもらう。
 - 礎高原まつりとてんきてんき村産業祭の協賛金会計を一本化する。配分額は「企画検討委員会」が総合的に検討する。
 - 丹後町の年間イベントカレンダーを作成し、旅館などへ提供し情報発信を行う。
 - 写真愛好家に協力を求め、観光スポット写真集を作成する。
 - 温泉と組み合わせ、健康をテーマにしたウォークラリーなど手軽なイベントを開催する。
 - 風力発電設備を含め、環境をテーマに新たなイベントを検討する。
 - 間人港まつりを丹後町の中心イベントに位置づける。また、休日開催を再度検討する。礎高原まつりの開催時期を再検討する。
- 【提言2】環境対策
 - 京丹後エコファミリー
 - 京丹後市全体の組織にし、旧町ごとに支部をつくる。
 - 構成員に企業の参加を促す。また、小・中・高等学校に環境関連クラブなどの発足を検討。
 - 温暖化防止問題を小学校の授業に組み込み、啓発活動の

- 一環として連携する。
 - KEEP（京都エコエネルギープロジェクト）を活用し、エコツアーを開催。海岸清掃体験なども組み込めばより効果が期待できる。
 - 市民参加型の新エネルギー事業を新たに展開する。
 - 水洗化促進について
 - 下水道未整備地区を市管理型浄化槽地域に指定を行う。
 - 水洗化の加入促進のため、住宅改修支援または家屋の固定資産税減免などを検討する。
 - ごみ問題について
 - 減量化とあわせ有料化へ。
 - 環境にやさしいゴミ袋（土にかえる）への転換。
 - 海岸ごみの処理支援策として、地域活動補助金を創設。
- 【提言3】子育て支援
 - 放課後児童クラブについて
 - 将来的には保育所を含めた施設のあり方の中で、例えば、学校の校舎へ移転する。
 - 婦人会や元気な高齢者のかたによるサポート組織を設立する。
 - 保育所などの適正配置について
 - 上・下宇川保育所の統合を進め、跡地は高齢者向けの福祉施設に転用する。
 - 竹野小学校を間人小学校と

- 統合し、竹野小学校施設を間人保育所に転用する。また、スクールバスの相互運行を検討する。
- 【提言4】登下校時の安全対策について
 - 学校・保育所を含めた、登下校時などのスクールバスの運行。
- 【提言5】「丹後町まちづくり基金（仮称）および「丹後町地域振興委員会（仮称）」の創設
 - 「丹後町まちづくり基金（仮称）」の創設について
 - 原資は、市の抛出金で賄い、合併特例債の地域振興基金を充当する。これに「協働」補完するものとして市民からの寄付金制度を設ける。さらに全国に寄付金を募る全国版のまちづくり基金制度とする。
 - 「丹後町地域振興委員会（仮称）」の設置について
 - 前記の寄付金の使途を含めた受け皿および資金管理や配分を決定する「丹後町地域振興委員会」を設ける。現在の振興協議会の発展した形として、本地域の町づくり総合戦略機関の本部として位置づけ、柔軟な発想が飛び交う委員構成をめざす。事務局は市民局が担当し、新市建設計画との整合性を図りながらも本町の

特性を活かした振興策を協議していく。企画力と創造性を兼ね、さらに実行力を備えた組織をめざす。

【提言5】今後の地域振興協議会のあり方

○継続を前提に、位置づけを再検討すべきである。協議会の本質論も避けずに、柔軟性を持って「在るべき姿」を鮮明に打ち出すべきである。「丹後町地域振興委員会」の設置を前提とし、総合計画や振興策の進捗状況やチェック機能はその組織に譲り、本来の自由で創造性にとんだ意見の集約の場を「地域振興協議会」とする。

○市の現在・将来にわたってのどんなコトでも、何時でも、提言できる組織にすべきであり、サロン風で自由闊達（かつたつ）な組織にすべきではないかと思われる。

○構成メンバーは、中・高校生を含めた公募にする。

○行政として提言を検討することは必要であり、また、その結果を公表したり、協議会に返すべきと思う。そうすることによって、より生き生きとした京丹後市になっていくと思われる。

提
言

あなたの声を市政に

「意見箱

紙面の都合によりご意見を一部割愛させていただきます。

Q 防災行政無線からのお知らせなどが聞こえませんか

網野町の屋外スピーカーから流れてくる防災行政無線は、全く聞こえませんが、火事など、緊急のときは、今までのサイレンにしてほしい。また、放送の方法についても、考え直してほしい。

【無記名】

A 防災行政無線と連携し、各戸への告知放送を整備します

網野町における屋外の防災行政無線については、これまでから、よく聞こえないとの意見をいただいております。たいへんご迷惑をおかけしております。火災などの災害発生時におけるサイレン吹鳴や、災害場所などの放送につきましては、阪神淡路大震災を教訓として、地震による家屋の倒壊などのため屋外や避難所に避難しているかた、津波からの避難のため災害時に屋外におられるかたなどへ、情報伝達を迅速、正確に行うことを目的とし、当時の網野町議会や区長会など、関係団体とも十分な協議を行ったうえ、平成十四年三月一日からモーターサイレンによる放送を防災行政無線放送設備の屋外拡声器による放送に変更しています。確

かに従前のモーターサイレンは出力が大きく、よく聞こえたというご意見をお聞きしますが、その反面、ご近所のかたには音が大きすぎるなどのご迷惑をおかけしていました。また、一方では、町内すべての地域をモーターサイレンでカバーできておらず、聞こえないといった苦情もよくお聞きしていました。現在使用しています防災行政無線放送設備につきましては、サイレン吹鳴のほか災害場所などのお知らせができるうえ、従前サイレンの設置か所数の約三倍にあたる町内四十五か所に設置しており、さらに聞こえづらいと思われる地域には、屋内に戸別受信機を設置させていただいています。また、合併後は、防災行政無線のデジタル化対応や、防災行政無線が未整備の大宮町や弥栄町、久美浜町での新設などの課題に対して、市の防災行政無線の効率的で全体的な整備について検討を重ねてきました。平成十八年三月に策定した「京丹後市地域情報化計画」においては、防災行政無線による屋外拡声器の整備とともに、この防災行政無線と連携し、コミュニティFMを利用した各戸への告知端末機を設置

Q ホームページへの火災・救急出動情報の掲載を

折角、立派なホームページを立ち上げているのだから、「今日の火災・出動」などの題名で、火災の発生状況や救急車の出動回数など、概略を記載することができないのでしょうか。火災が市内のどここの地域であったか、本日の救急出動回数は地域別に何回であったかなど、周知することによって、火災発生への注意喚起や、いたずらに救急車の出動を要請することへの抑止力にならないかと思えます。

【市内・男性】

A ホームページの活用を含め防火など情報発信に努めます

消防本部では、平成十七年四月から、より多くのかたへ消防情報を届けたいと考え、すべてを職員の手づくりによるホームページを立ち上げました。公開後は、前月の出動件数やフォトキャッチ（活動風景）などを中心に、無効を告示し、所轄警察署および京都陸運支局に通報することとしています。

Q 病気休暇取得はどのようになっているのか

過日、公務員の病気休暇の不適切な取得について問題が発覚し、マスコミも賑やかでしたが、当市の病気欠勤や病気休暇はどのように規定されているのか、教えてください。

【市内・男性】

A 病気休暇は最長九十日間とし、その期間は有給としています

京丹後市では、病気休暇の最長期間を九十日間とし、その期間は、有給として扱っています。その期間を過ぎれば地方公務員法の規定に基づき休職命令を行い、その後は休職期間として扱

広報「きょうたんご」十二月号の「意見箱」について

広報「きょうたんご」平成十八年十二月号「ご意見箱」における「スポーツでがんばる子どもたち」の文中で、脱字があるとともに配慮の足りない掲載により、関係者のみなさんなどに不快な思いをさせてしまいましたことに、心からお詫び申し上げます。今後、一層の配慮に努めるとともに、市では、スポーツに限らずさまざまな分野で活躍されるかたをできる限り応援させていただきます。

Q 自動車の臨時運行許可番号票（臨時ナンバー）の交付について

自動車の、道路運送車両法により、国の検査・登録を受けなければ、運行できないこととされています。しかし、新規（継続）検査・登録のための回送などについては、特例的に、臨時運行を許可する制度があります。市役所では、同法や関係法令、市規則などに沿って、自動車の臨時運行許可証・番号票の期限を定め、交付・貸与しています。これに対して、許可証などの返納が遅れた場合の市の対応や、臨時ナンバーの不正使用の恐れなどについて、ご意見をいただいています。

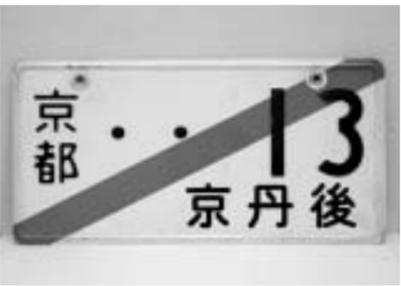
このため、市では、平成十八年十二月二十七日から、市規則に返納期限を超過した臨時ナンバーの回収義務を追加明記し、臨時ナンバーの回収が不可能となった場合には、当該ナンバーの

寄せられた意見を市政に反映

市では、市民のみなさんからいただいたご意見を市政に反映させる努力をしています。お寄せいただいたご意見などを参考に改善した事例をご紹介します。

▼人工透析患者のかたの通院交通費に対する助成範囲の拡大について

市では、じん臓機能障害のあるかたの透析治療に対し、公共交通機関による通院費の一部を助成しています。しかし、近くに透析治療のための医療機関がなく、遠方の病院まで通院しなければならぬことから、自家用車での通院を余儀なくされるかたもおられました。このため、平成十八年九月一日から、公共交通機関がない場合や、遠距離の通院（住所地从医療機関までの距離が片道二〇キロメートル以上）で、公共交通機関を利用すると数回の乗り継ぎが必要となり、公共交通機関を利用し通院したいと認められる場合には、自家用車による通院についても助成することとしました。



京丹後市が発行する臨時ナンバー。有効期間終了後は、5日以内に返納してください

▼指定ごみ袋（ミニ）および不燃ごみ袋の導入・販売について

市指定の可燃ごみ袋は、四十五リットル（一枚三十円）と三十リットル（一枚二十円）の二種類がありますが、単身世帯や高齢者世帯など、少人数の世帯のかたには、大きすぎるなどのご意見をこれまでかいただいたいました。また、コンテナまたはごみ袋による併用収集として、不燃ごみの収集についても、合併後、コンテナ収集に統一する予定としていましたが、移行期間中に各地域で異なった収集方法を行う中で、それぞれの利便性があつたことから、地域住民のみなさんから、併用収集について、ご要望をいただきました。

これを受けて、市では、いただいたご意見・ご要望について、「京丹後市廃棄物減量等推進協議会」へ諮問し、昨年四月二十四日に新たに小さな可燃ごみ袋を採用することと、不燃ごみの収集方法を概ね平成二十一年度末まで、地域の諸事情を踏まえ、コンテナとごみ袋の併用収集とすることについて、答申をいただきました。この答申を受け、新たに二十リットルの可燃ごみ袋（一枚十五円）を導入するとともに、不燃ごみについては、コンテナとごみ袋の併用収集とし、生分解性プラスチック（熱・紫外線・土中の微生物などにより分解し消滅する素材）を原料とする三十リットルの不燃ごみ袋（一枚十円）の販売を平成十八年十月から開始しました。

市立図書館 ご案内

大宮図書館

冬のおたのしみ会

ボランティアグループ「手をつなごう」のみなさんによる「冬のおたのしみ会」を12月2日にアグリセンター大宮で開催しました。

会場の和室がいっぱいになるほどの子どもたちが参加し、手づくりペープサート「3びきのかわいいおおかみ」をはじめ、パネルシアター・大型絵本・金子みすゞの詩の暗唱など、バラエティーにとんだ演目で楽しいひとときを過ごしました。



峰山図書館

図書館冬のお楽しみ会

「図書館冬のお楽しみ会」を、12月9日に峰山地域公民館で開催しました。約300人の親子でいっぱいの会場で、読み聞かせボランティア「わ」のみなさんによる手品や、人形劇「さるかにがっせん」を楽しみました。人形や大道具などすべてが手づくりで、時間とアイデアがいっぱい詰まったすばらしい舞台の後、3会場にわかれてクリスマスの飾りをつくり、笑顔いっぱいに楽しみました。

丹後図書館

冬のおはなし会

読みかせボランティアの会による「第8回冬のおはなし会」を、12月9日に丹後地域公民館で開催し、約140人ものかたに参加いただき、会場は熱気に包まれました。

今回は、「しりとりのだいすきなおうさま」の劇を中心に、絵本「月曜日はなにたべる？」の読み聞かせや、エプロンシアター「三びきのやぎのガラガラドン」、紙芝居「したきりすずめ」、また手遊びもあり楽しかった。劇の中では、参加者全員でしりとりをしたり、王様のわがままぶりに大笑い。子どもたちは最後に、ボランティアのかたの手づくりのプレゼントをもらい、とてもうれしそうでした。



「しりとりのだいすきなおうさま」

久美浜図書館

絵本の読み聞かせと科学あそび教室

12月16日に「絵本の読み聞かせと科学あそび教室」を開催しました。

絵本は、雪やクリスマスに関する、美しく、夢を与えてくれるようなひとときでした。

その後の「科学あそび教室」では、2つの紙コップの底に穴を開け、そこにホログラムシートをはり七色の光の変化を楽しむ「光の万華鏡」をつくりました。

作品それぞれに工夫がこらされ、楽しみながら万華鏡のぞく様子は、とても満足そうでした。



あみの図書館

冬のおはなし会

恒例の「冬のおはなし会」を12月17日に開催しました。

「あみの読み聞かせボランティア」のみなさんにご協力いただき、普段の絵本の読み聞かせとは一味違った手法のストーリーテリング「まめつぶころりん」や、大型絵本の読み聞かせ「たまごねえちゃん」、パネルシアター「かさじぞう」、ペープサート「さるかに」などで、お話の世界を楽しみました。また、手品や手あそびのほかに、サンタクロースから手渡しでプレゼントをもらうなど、約250人の参加者が存分に楽しみました。



※読み聞かせ活動に興味のあるかたは、お気軽に各図書館（室）にお問い合わせください。

2月の休館日

11日(日)・12日(月)・19日(月)・26日(月)

3月の休館日

1日(木)・5日(月)

開館時間：10:00～18:00

峰山・あみの図書館は、水曜日のみ19:00まで

※峰山・あみの図書館には、ブックポストがありますので、休館日の返却にご利用ください。
※休館日は、本紙発行日の2月9日以降、次号発行日の3月9日までを掲載しています。

丹後の史跡・名勝を短歌に

「丹後短歌コンクール」入選作品が決定

丹後二市二町（京丹後市・宮津市・与謝野町・伊根町）で構成する丹後地区広域市町村圏事務組合が、本年度初めて取り組んだ「丹後短歌コンクール」の入選作品が決まり、十二月十八日に市役所入賞者のみなさんに表彰状が授与されました。

同コンクールは、丹後の地名や名所を歌に詠むことにより、丹後のよさを再発見してもらうとともに、短歌を通して「丹後」のPRを図ろうと全国に広く募集。一般の部（高校生以上）また小・中学生の部に、三百七十六人から五百六十七首もの力作が寄せられました。

一般の部では、峰山高等学校三年生の松尾哲裕さんが、また小・中学生の部では、網野南小学校二年生の木村美野さんがそれぞれ最優秀賞に輝き、同組合の理事長である中山京丹後市長から表彰状を授与しました。

最優秀作品

【一般の部】

ここからだオレがスタート切ったのは

天築（てんじ）ヶ丘の春風のもと

松尾 哲裕さん



最優秀賞 松尾哲裕さん



最優秀賞 木村美野さん

【小・中学生の部】

えんそくで天のはし立またのぞき

みどり色したみか月みたい

木村 美野さん

美しいヴァイオリンの響きに感動

公共ホール音楽活性化事業 in 京丹後

クラシック音楽を身近に感じてもらうと、ヴァイオリニストの早稲田桜子さんや、ピアノの眞理さんによる「ヴァイオリンリサイタル」を、一月十四日に京都府丹後文化会館（峰山町杉谷）で開催。来場者は美しい調べに聴き入りしました。

同日サイタルは、京丹後市と財団法人京都府丹後文化事業団、財団法人地域創造（東京都港区）の共催により、多くのかたに生の音楽の楽しさを味わっていただくこと、「公共ホール音楽活性化事業」の一環として開催。

また、同日サイタルに先立ち一月十二日・十三日の二日にわたりお二人は、野間小学校・峰山中学校・大宮中学校・ゆうゆう作業所を訪問し、生演奏や合唱、合奏などで交流を深められました。

十二日に訪れた野間小学校（森岡克生校長・十六人）では、全校児童をはじめ保護者のかたなど約五十人の聴衆の前に、エルガー作曲の「愛のあいさつ」やモンテ作曲の「チャールダッシュ」など七曲を披露。

また、児童一人ひとりが早稲田桜子さんに教えてもらいながらヴァイオリンを弾くとともに、お二人の伴奏に合わせて参加者全員が「ピリッ」を合唱するなど、学校の音楽の授業では味わうことのできない生の音楽のすばらしさを体感しました。



早稲田桜子さん（右）に教えてもらいながらヴァイオリンを弾く野間小学校の児童（左は早稲田眞理さん）

弥栄病院 今春から2人の常勤産婦人科医が着任

お産の拠点として体制充実

市立弥栄病院では、産婦人科医師の不足によりお産の受け付けを制限していましたが、このほど常勤医師に着任いただくことになりましたので、四月以後の通常のお産について予約受付を開始しました。

着任いただくのは、福田美佳医師と、大田美則医師のお二人。福田医師は、現在弥栄病院に非常勤で勤務、三月から常勤となります。また、大田医師は、現在「丹後ふるさと病院」に勤務されており、同病院のご協力のもと、四月から弥栄病院に移っていただくことになりました。

丹後ふるさと病院においては、一人医師体制であることや、ほかの診療科の患者さんと一緒の混合病棟という施設の限界もあり、京丹後市内で安全・安心なお産が可能な体制や、一人でも多くのお産の受け入れのためには、一拠点化が最善



昨年七月にお産の受け付けを再開した弥栄病院で、二人目となる赤ちゃんが一月十二日に誕生

の方向であるという判断から、弥栄病院でのお産の拠点化に合意をいただいたものです。

近年、市内でのお産は、丹後ふるさと病院と市立弥栄病院がそれぞれ年間約二百五十件ずつ取り扱っていました。

弥栄病院では、従来は福井大学から医師の派遣を受けて産婦人科の診察、分娩を行ってききましたが、全国的な医師不足により大学が医師を引き揚げざるを得ない状況となる中、昨年四月から常勤医師が一人体制となりました。（その後六月に退職）

その結果、妊婦のみなさんにお産をしていただくことができなくなり、たいへんご迷惑をおかけしましたが、京都府の「医師バンク」の活用により、京都府立医科大学、府立与謝の海病院、京都第一赤十字病院、第二赤十字病院など関係機関の支援を受けて、七月から妊婦検診・お産の受け付けを再開しました。

しかし、医師が非常勤であったため、安全を最優先し、多くの妊婦さんには府立与謝の海病院など、市外の医療機関でお産をしていただきました。妊婦さんとはもとより、ご家族にもたいへんご不便をおかけしましたが、四月以降は通常のお産をしていただけることとなりました。

今後とも、安全・安心を最優先に、市民のみなさんのお産についてのニーズ（要求）に添えていきます。

弥栄病院【☎六五―二〇〇三（代表）】

弥栄病院 特別参与に 笹野 満 医師 就任

弥栄病院では、1月1日付けで、財団法人丹後中央病院の笹野満名誉院長を特別参与としてお迎えしました。

笹野特別参与は、市の介護認定審査会会長や障害程度区分認定審査会会長など、これまでから市の医療、保健福祉の向上に多大なご尽力をいただいています。

お産再開後 初めての分娩（12月26日）に立ちあった

京都第一赤十字病院産婦人科 山本浩之 医長

産科をやめてしまう病院が増える中、弥栄病院関係者のかたの熱い願いによって分娩が再開され、その場に立ち会えたことをうれしく思います。

今春からは常勤の医師が来られ、診療・分娩が充実されるとお聞きし、病院の今後の発展をお祈りいたします。

人口・世帯数

男	30,968人
女	33,386人
計	64,354人
世帯数	22,071世帯
(1月1日現在)	

発行／京丹後市役所 編集／秘書広報広聴課
 〒627-8567 京都府京丹後市峰山町杉谷889
 ☎0772-69-0110 FAX0772-69-0901
 ホームページ <http://www.city.kyotango.kyoto.jp>
 E-mail hishokoho@city.kyotango.kyoto.jp